

東タク協 都に予算要望

UDタク導入支援継続へ

小池知事「車いす拒否問題」で注文も

東京ハイヤー・タクシー協会の川鍋一朗会長（日本交通会長）ら幹部は20日、東京都の2020年度予算要望ヒアリングに出席し、小池百合子知事にユニバーサルデザイン（UD）タクシー車両と多言語対応タブレット端末の導入費補助の追加を要望した。現状すでに交付を受けており、さらに増やしたい考え。小池知事はトヨタのUD仕様の「JAPANタクシー（JPN TAXI）」を挙げ、「かなり目に付くようになった。2020（東京五輪）大会のレガシー（遺産）になり得る。引き続き導入を進めていく」と、支援措置を継続する意向を表明した。

JPNタク操作 教育徹底を要請

小池知事は一方で、「車いすの人を（乗せずに）スルー（通過）するタクシーがある。（車が）上等なものになりながら、結局、車いすの人たちが乗せてもらえないとなると、都の考え方とは違ってくる。教育を徹底してほしい」と忠告した。

ヒアリングの冒頭、川鍋会長は「JPNタクシーは破格とも言える60億円の補助により、都内では五輪開

「JPNタクシーは五輪のレガシーになる」と小池都知事（左から2人目）。要望書を手渡す川鍋会長（左端）と、知事を挟んで川野副会長、富田総務委員長（20日、東京・西新宿）

「産業構造全体の改革をしている最中なので、引き続きの支援を」と訴えた。これまで4000台分の補助を受けた。

小池知事は「タクシーは、（障害者、妊婦・子連れ、外国人など）ひっくるめて

ダイバーシティ（多様性）を運ぶ移動手段。これからの発展をサポートしたい」と述べた。

JPNタクシーの車いす乗車問題に、川鍋会長は「反省すべき点が多々ある。今、こぞって各社が教育を進めている。ただ、頭に入れてほしいのは結構時間がかかること。教育に全力を尽くし、ニーズもリーチし、責任を果たしたい」と決意を示した。

小池知事は「（JPNタクシーの構造は）『後ろか

ら入れられるのは、荷物扱いで嫌だ」という声からデザインが決まったと聞くが、多くの人たちはそうではない。移動できれば、乗せてもらえればいい。移動したいという一番の要望に応えてほしい」と語った。

川野繁副会長（飛鳥交通社長）、富田和孝総務委員長（日の丸交通社長）らが同行した。